

※今月のみ受注の書目です。

日本近世史（江戸文化）／動物学

動物たちの江戸時代 平積み

（2025 年 4 月中旬刊行予定）

井奥成彦（慶應義塾大学名誉教授）[編著]

四六判並製／272 頁 税込予価 2,640 円 ISBN978-4-7664-3028-8 C0021

 ココに注目！

- ・犬、猫、牛、馬、鹿、猪、鷹、鶴、カワウソ、鯨……など、あらゆる動物が勢揃い！
- ・江戸時代、人々はそれらの動物たちと、どのようにともに暮らしていたのか？
- ・「生類憐みの令」に代表される、動物愛護は本当だったのか？
日本独自の動物たちへの接し方を古文書などから読み解く！

江戸時代の人々はどのように動物たちと接し、利用し、可愛がり、共存していたのか？ 西洋文明が流入する以前の「動物たちとの関係」——「犬」「牛馬」「鹿・猪」「鷹・鶴」「鳥」「カワウソ」「鯨」など——について、古文書や浮世絵、考古資料など、さまざまな知見から読み解いていく。

対象 一般（江戸文化／動物雑学に関心のある層）

類書 根崎光男『犬と鷹の江戸時代』（吉川弘文館）

【営業部からのおすすめポイント】

江戸時代の動物についての書籍は、犬や猫などの単品種を扱ったものは見られますが、様々な動物を包括的に論じたものは意外とありません。アニマル・ウェルフェアの概念が次第に浸透し、また NHK 大河ドラマ「べらぼう」により江戸文化が盛り上がっている今、ぜひ積極的な展開をお願いします！
(乙子)

 主要目次、注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【主要目次】

カラー口絵 序

第一章 犬たちの江戸時代

第二章 牛と馬が支える江戸時代の暮らし

Interlude 1 出土馬骨の研究

第三章 狩られる鹿・猪たち

——徳川将軍の「鹿・猪」狩り

Interlude 2 江戸大名屋敷の獣肉食

第四章 鶴と鷹の江戸時代

——徳川将軍と「御鷹之図」

第五章 江戸のペットビジネス（犬、猫、鳥、金魚ほか）

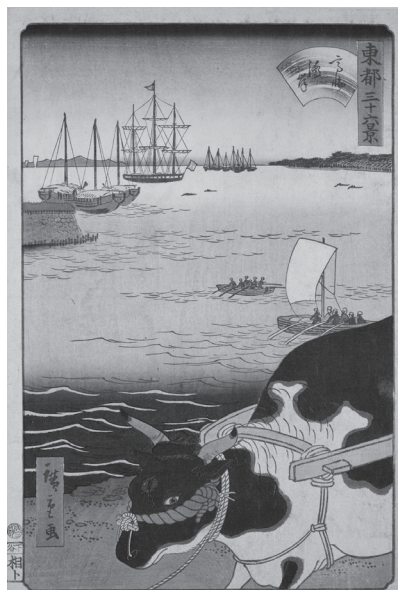
Interlude 3 江戸時代の狆飼育

第六章 薬となった動物たち（カウソウ、熊、イッカク）

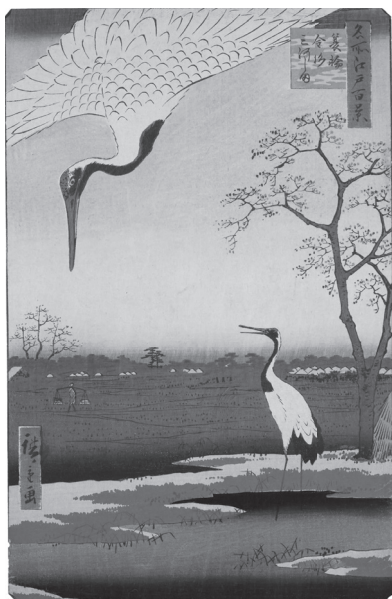
Interlude 4 象との出会い

第七章 鯨と江戸時代

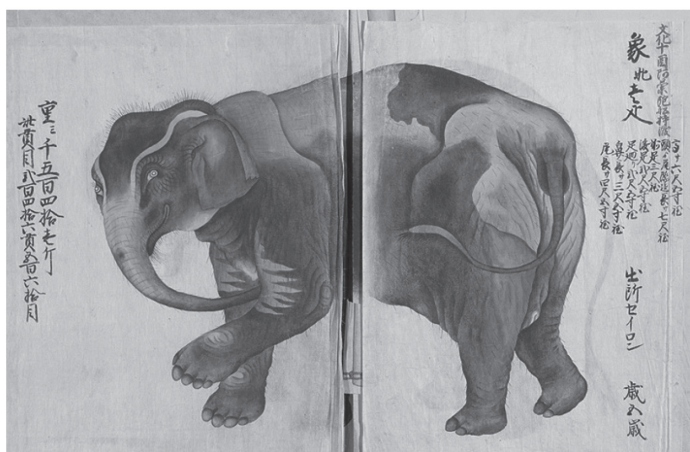
◎本書の図版から



表紙：
牛（「東都三十六景 高輪海岸」）



カラー口絵より：
鶴（「名所江戸百景 箕輪金杉三河しま」）



カラー口絵より：
象（「唐蘭船持渡鳥獸之図」）



ご注文は FAX で！ 03 - 3451 - 3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
新刊委託		井奥成彦 編著 動物たちの江戸時代 ISBN978-4-7664-3028-8 C0021	2,640 円	★★★ ★★

★1つで「500部」を表します